

2026年6月期（第35期）決算補足説明資料 2027年6月期（第36期）経営計画

**2026年8月4日
アクモス株式会社**

今回の資料サマリー

2026年6月期 業績概況

- ・ITソリューション、ITインフラ事業で増収となり、売上高は7,499百万円で前期比16.8%増。人財投資や仕入の増加、ITサービス事業の伸び悩み等により営業利益が減少し、経常利益率は7.1%(前期は9.1%)
- ・受注残高は前期末比27.7%増。ITソリューション事業が消防通信指令システムなど中心に39.6%増、ITサービス事業が複数年度案件の受注等により58.2%増。ITインフラ事業は案件の期中完了や入札時期の関係で27.2%減

2027年6月期 業績見通し

- ・中期経営計画2028(2024/07～2028/06)の後半2年は、収益性重視で経常利益率10%以上を目指す(p17参照)
- ・2027年6月期は、売上高80億円、経常利益7億円を計画

株主還元（配当）

- ・2026年6月期の期末配当は、当初計画通り1株当たり25円の予定
- ・2027年6月期の期末配当は、1株当たり25円を計画

※2028年6月期までの中期経営期間において累進配当を導入。2025年6月期の期末配当より、前年実績の水準に対して、維持又は増配を行うことを基本方針としております。

目次

- 2026年6月期（第35期）業績概要
- 中期経営計画 進捗状況
- 2027年6月期（第36期）経営計画
- 株主還元

2026年6月期（第35期） 業績概要

2026年6月期 業績ハイライト（前期比）

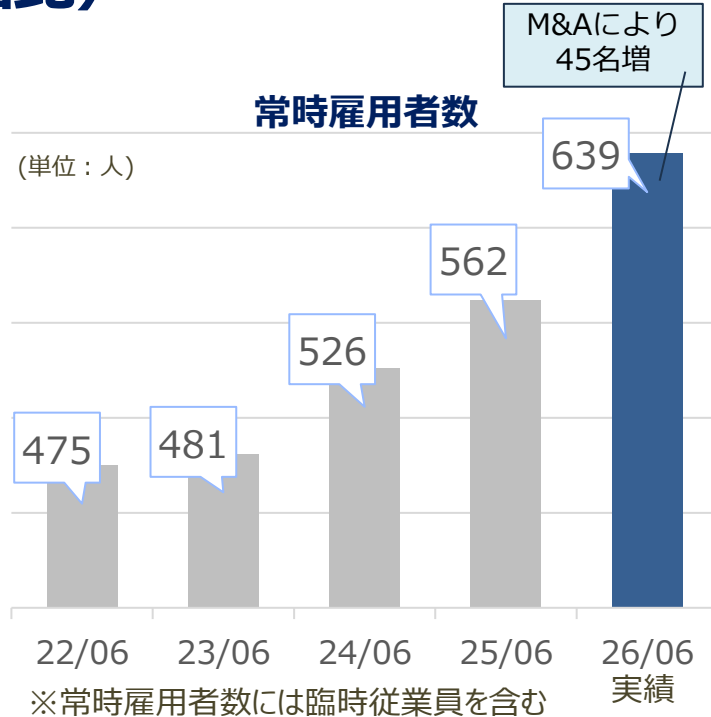
- ・ 子会社の決算期変更、新規子会社獲得等により、ITソリューション事業は前期比21.2%増
官公庁案件を中心に堅調だったITインフラ事業も前期比27.3%増
- ・ 人件費や機材仕入等による営業費用増加、ITサービス事業の第三者保守サービス事業が
営業損失となったことにより営業利益が減少し、経常利益率は7.1%

(単位：百万円)	2025年6月期 通期	2026年6月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	6,421	7,499	1,077	16.8%
営業利益	583	524	▲59	▲10.2%
経常利益	584	529	▲55	▲9.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	386	316	▲69	▲18.0%
株主資本利益率(ROE)	11.8%	9.3%	—	—
経常利益率	9.1%	7.1%	—	—
1株当たり配当金	25円	25円 (予定)	—	—
受注残高	2,312	2,952	640	27.7%

※各セグメントの状況については、P11～13に記載しております。

2026年6月期 業績ハイライト（計画比）

経営目標 K P I	当初計画	4/30 修正予想	実績
売上高	7,000百万円	7,500百万円	7,499百万円
営業利益	700百万円	450百万円	524百万円
経常利益	700百万円	450百万円	529百万円
親会社株主に 帰属する 当期純利益	450百万円	340百万円	316百万円
株主資本利益 (ROE)	13.0%	—	9.3%
経常利益率	10.0%	6.0%	7.1%



方針

Growth領域は受注拡大に向け体制整備、ソリューション提案強化、首都圏M&A推進。
Core領域は高付加価値分野へ人財をシフトし、全分野で新規受注拡大。

人財投資に伴う採用後の収益貢献時期の適性化



- ・Growth領域事業で開発体制を強化。受注に向けた積極的な提案活動を推進。
- ・M&Aでシステムズサービス社を連結子会社化し、金融分野のSES事業を開始。



- ・新入社員のOJT実施部門への配属を一斉から業務選択に応じた履修内容を考慮した計画的な配属に変更し、適正化を図る。

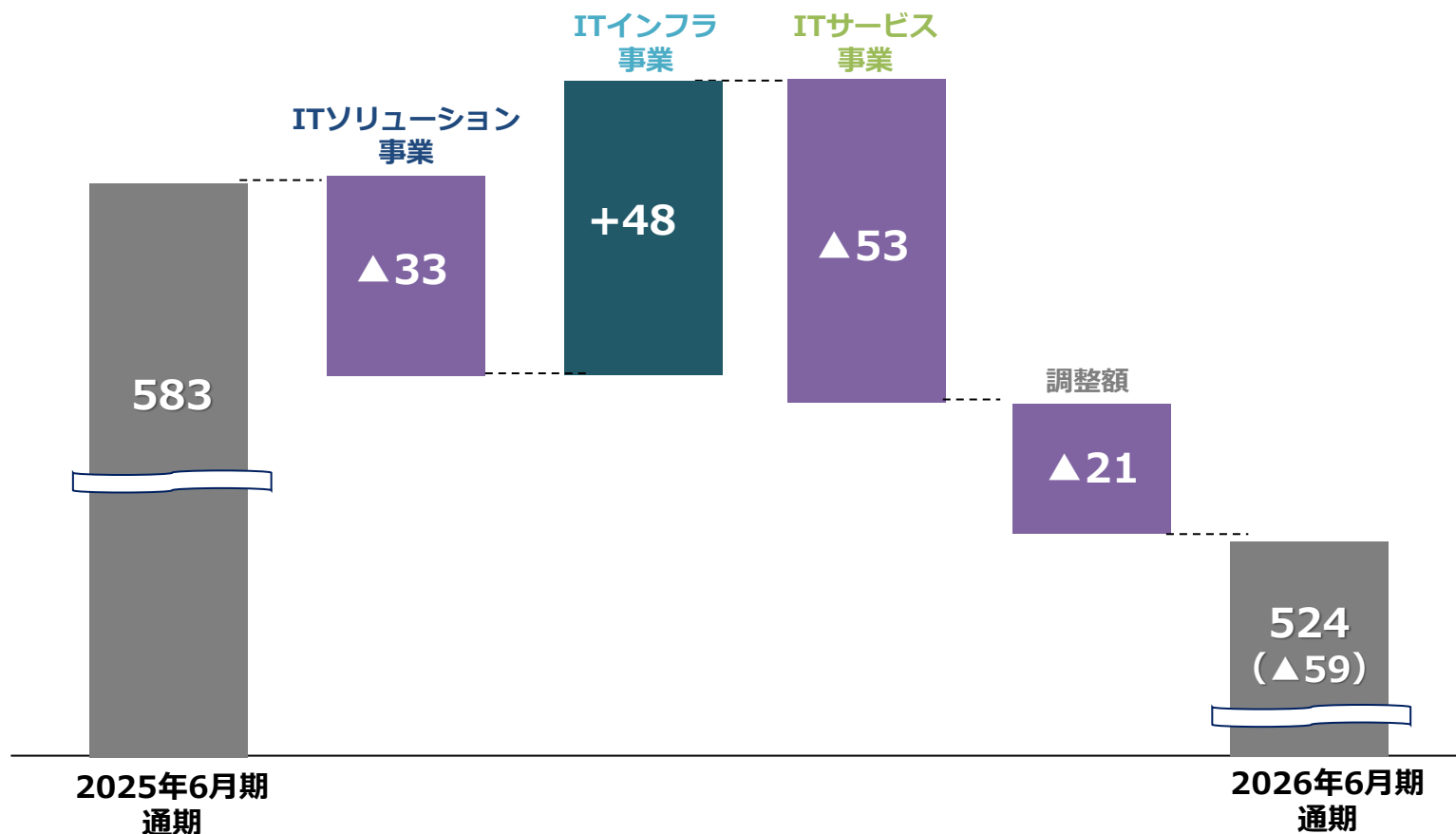
主な取り組み

2026年6月期 営業利益分析（前期比）

■ 増益要因
■ 減益要因

（単位：百万円）

ITソリューション、ITインフラで売上増となるも、
人件費や機材の仕入等の営業費用が増加し、営業利益は前期比10.2%減



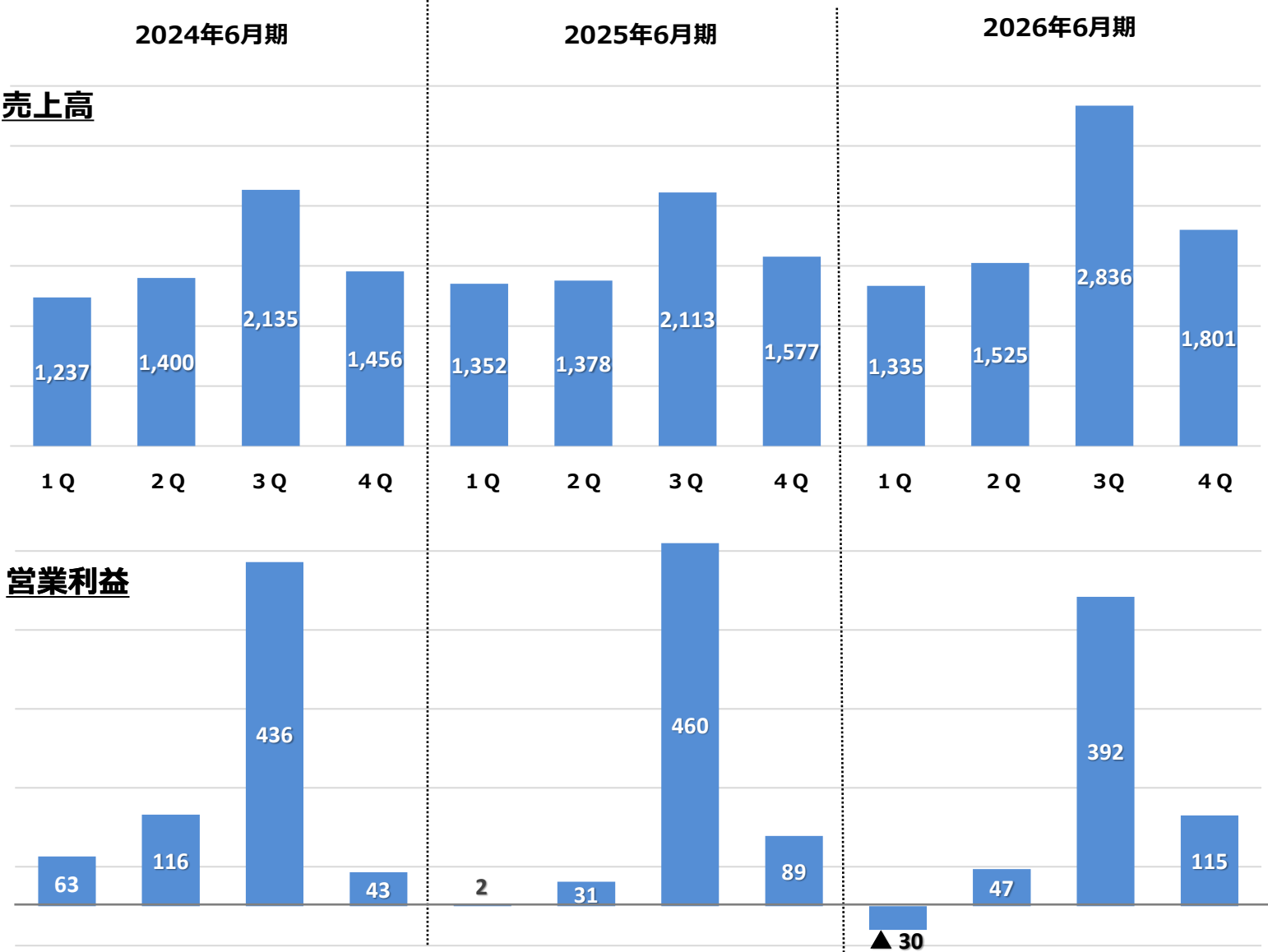
売上高 +1,077百万円 (ITソリューション+854, ITインフラ+285, ITサービス▲18, 調整▲44)
営業費用 +1,137百万円 (ITソリューション+887, ITインフラ+236, ITサービス+35, 調整▲22)

※各セグメントの状況については、P11～13に記載しております。

連結売上高・営業利益推移

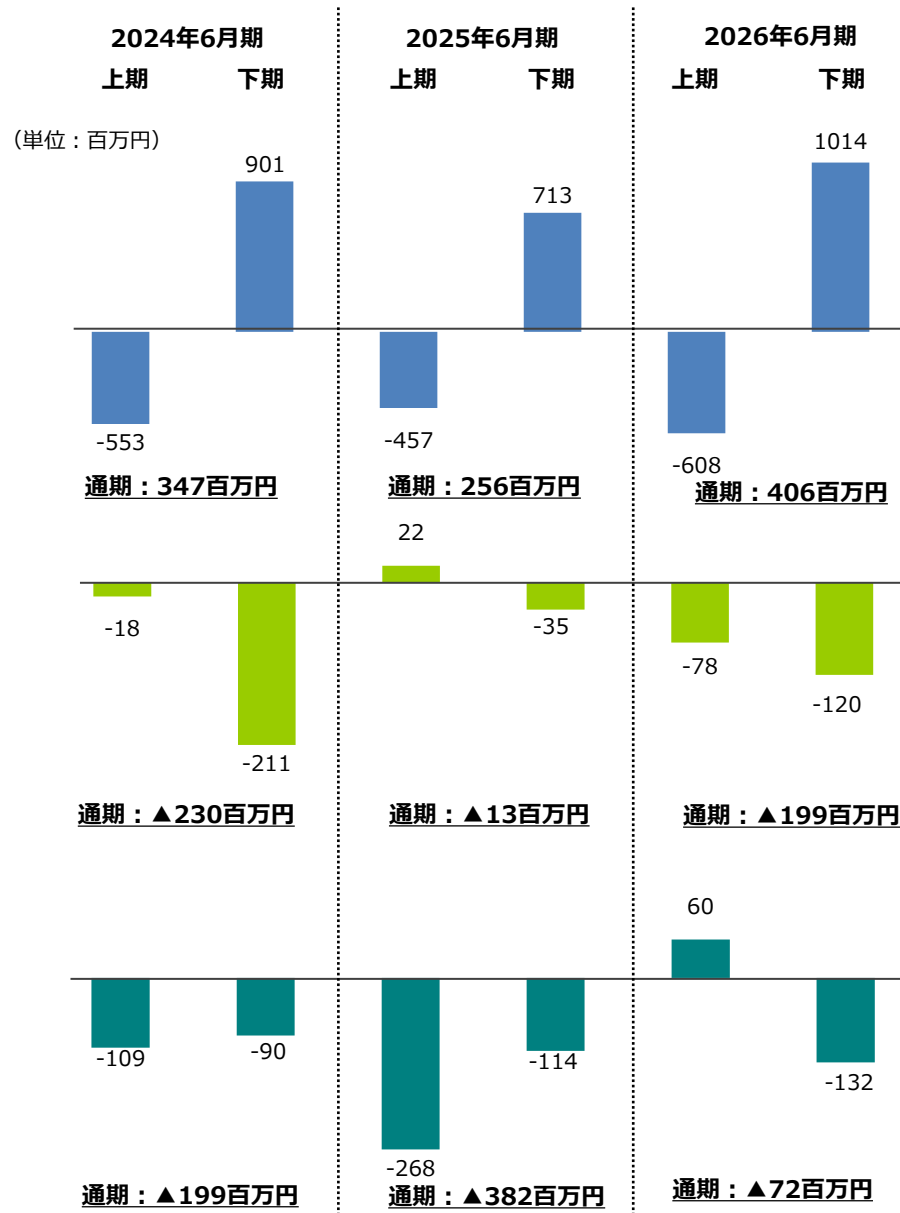
国内法人のお客様の多くが3月決算であることから、3月末にあたる第3四半期末において、売上が多く計上される傾向があります。

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー推移

ITソリューション事業は、下期の3月末の売上計上が多く、下期において売掛金を回収するために、営業キャッシュ・フローが下期に増加する傾向にあります。



営業キャッシュ・フロー 406百万円

- ・法人税等の支払額 ▲245百万円
- ・棚卸資産の増加 70百万円
- ・税金等調整前当期純利益 524百万円
- ・売上債権の減少 102百万円
- ・非資産項目である減価償却費 54百万円

投資キャッシュ・フロー ▲199百万円

- ・連結の範囲の変更を伴う
子会社株式の取得による支出 ▲132百万円
- ・有形固定資産の取得による支出 ▲46百万円
- ・無形固定資産の取得による支出 ▲24百万円
- ・保険の解約による収入 34百万円

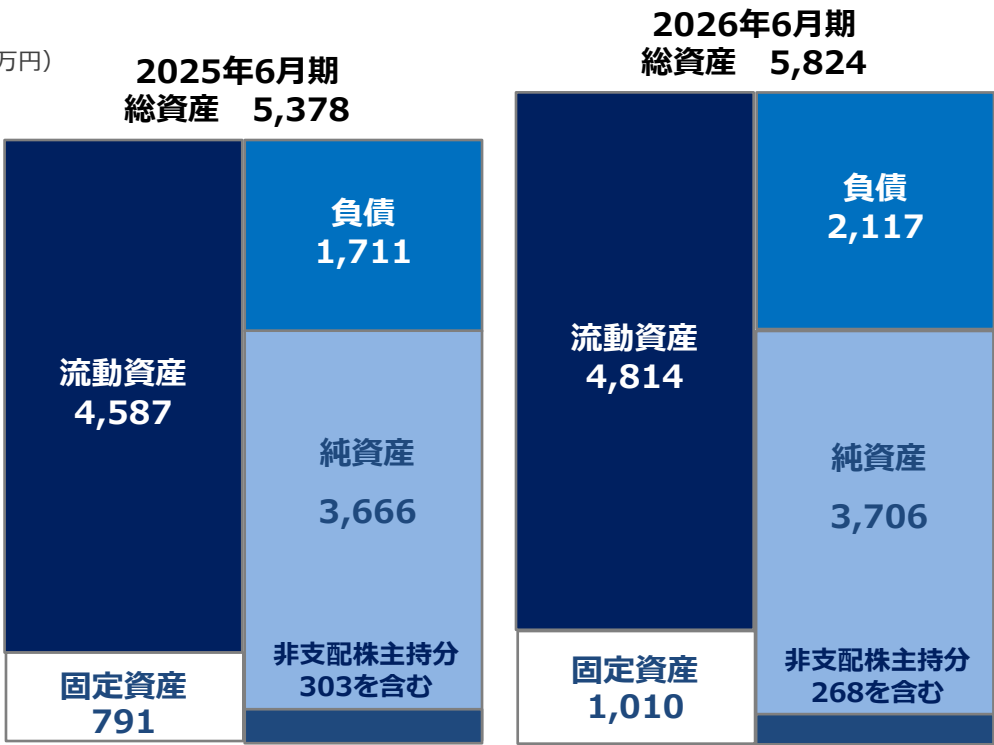
財務キャッシュ・フロー ▲72百万円

- ・長期借入金の返済による支出 ▲76百万円
- ・配当金の支払額 ▲247百万円
- ・短期借入金の純増額 300百万円

連結財政状態

総資産は前期比で増加。自己資本比率は59.0%

(単位：百万円)



- 資産
- ・ のれんの増加 180百万円
 - ・ 現金及び預金の増加 155百万円
 - ・ 商品の増加 42百万円
 - ・ 仕掛品の増加 27百万円
 - ・ 受取手形及び売掛金の減少 13百万円

- 負債
- ・ 短期借入金の増加 300百万円
 - ・ 未払金の増加 92百万円
 - ・ 買掛金の増加 40百万円
 - ・ 長期借入金の減少 57百万円 (1年内返済予定の長期借入金含む)
 - ・ 未払法人税の減少 34百万円

- 純資産
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益 316百万円
 - ・ 配当金の支払い 248百万円

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期	増減額
設備投資 + 研究開発費	42	74	32
減価償却費	52	54	2
有利子負債	400	643	242

セグメント情報 ITソリューション事業

調達コスト上昇等が影響するも、全国5箇所消防通信指令システムを納入

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期	前期比	
	通期	通期	増減額	増減率
売上高	4,023	4,878	854	21.2%
営業利益	367	334	▲33	▲9.0%
営業利益率	9%	7%	—	—

事業の概況

- ・株式会社システムズサービスの子会社化により、金融分野でのシステムエンジニアリングサービスの提供を開始。
- ・消防防災事業は、機器・必要資材の調達コスト上昇の影響を受けるも、新規の納入4箇所を含む全国5箇所の消防本部様に消防通信指令システム(SYMPROBUS Fシリーズ)納入。受注拡大に伴い、2026年6月に消防防災オフィスを移転拡張。
- ・行政向けITソリューションは、対応エリアや販路の拡大に注力、車検用納税確認支援システムの納入自治体数が順調に増加。
- ・経営情報をより適時に開示するため、株式会社プライムシステムデザインの決算期を3月から6月に変更。2026年6月期は同社の15か月分の損益を連結。
- ・受注残高は消防通信指令システムなどを中心に、前期比で39.6%増加の1,630百万円。
- ・「車検用納税確認支援システム」が、デジタル庁が運営する行政・自治体と企業をつなぐプラットフォームである「デジタルマーケットプレイス」に登録・掲載。

セグメント情報 ITインフラ事業

DX化推進、ITインフラ環境整備の需要を取り込み、計画通りに受注を推進

(単位：百万円)

	2025年6月期 通期	2026年6月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,046	1,332	285	27.3%
営業利益	163	212	48	29.9%
営業利益率	16%	16%	—	—

事業の概況

・茨城地区において、官公庁向けのDX化推進、ITインフラ環境整備の需要を取り込み、比較的規模の大きい構築案件を計画通りに受注。
官公庁の全庁を対象にした共通基盤、LGWAN環境整備並びに外部接続環境整備等のプロジェクトや安全保障関連分野での各種基盤構築や情報化推進支援システム案件等に取り組み、保守運用も順調に継続。

・首都圏でのネットワーク事業の拡大に向け営業・技術部門の連携強化を図り、大手SIer及びそのグループ会社のインフラ案件へのシフトを推進。

・当期受注案件の多くが期中に完了したことや官公庁案件の入札時期の関係もあり、受注残高は前期末に対し27.2%減の416百万円。

セグメント情報 ITサービス事業

第三者保守サービスの売上が伸び悩み、前期比で減少

(単位：百万円)

	2025年6月期 通期	2026年6月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,395	1,377	▲18	▲1.3%
営業利益	99	45	▲53	▲54.3%
営業利益率	7%	3%	—	—

事業の概況

- ・BPOサービスは、Webアンケートや調査系の入札案件に取り組み、3期ぶりに増収に転換。
 - ・病院情報システム維持管理は、新規病院での稼働により堅調に推移。
アクモスメディカルズ株式会社は、2025年8月に茨城県内における採用活動拠点として茨城オフィス開設、2026年6月には本社を移転。
- ・メーカー保守が終了したIT機器の保守を提供する第三者保守サービスは、受注時期の遅延や解約の影響から伸び悩み、当社グループ参画後初の営業損失に。
株式会社フィールドワンは、2026年4月に経営体制を刷新し、収益性の回復、赤字解消に取り組む。
 - ・受注残高は、第三者保守サービスを含め、いずれのITサービス事業も複数年度案件の受注等により前期比較で増加し、前期末に対し58.2%増の905百万円。

中期経営計画の進捗状況

中期経営計画2028 2年目進捗状況

事業戦略の取り組み

Growth成長投資領域

- ・消防防災事業：消防通信指令システム受注拡大に向け、SE体制を強化し新オフィス開設
- ・ネットワーク事業：PL育成に注力。システム開発＋インフラ構築のトータルソリューション提案を積極的に推進

Core維持伸長領域

- ・首都圏地区のM&Aを進め、2026年1月にシステムズサービスを連結子会社化して金融分野でのシステムエンジニアリングサービスの提供を開始

Rebuild改善領域

- ・第三者保守サービスの立て直しに向け、対応機器の拡大を計画通りに進めるも、受注時期の遅延や解約の影響から業績は伸び悩む

Challenge研究開発領域

- ・顧客サービス、開発分野、間接業務等多様な業務領域でのAI活用検討を進める

人財戦略の取り組み

人的資本投資継続、グループ間人財交流

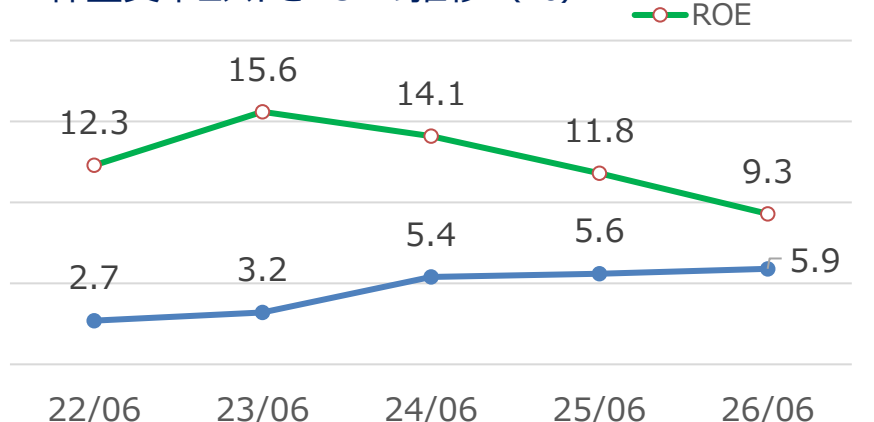
- ・技術者の確保と育成を進め、従業員数は前期末比56名増の546名(臨時従業員含む雇用者数は639名)
- ・当社新入社員を一斉配属から計画的な配属に変更、収益貢献時期の適性化を図る
- ・グループ内の情報共有と交流促進のため、コミュニケーションツールを導入し、業務担当者別に交流会を実施

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

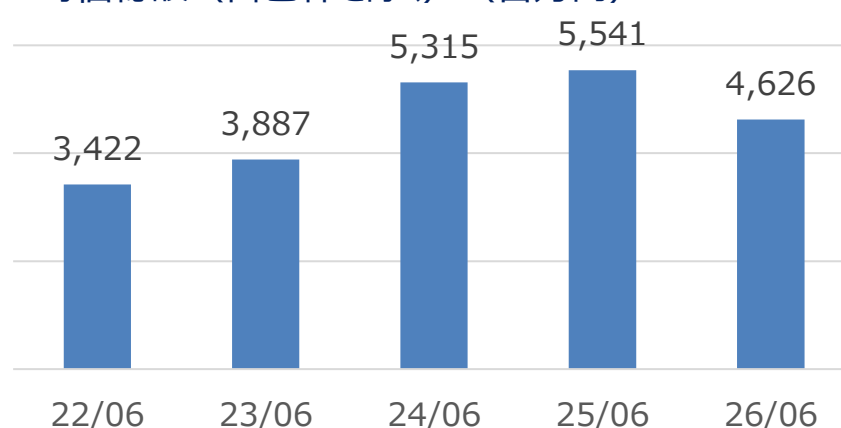
ROEは、当期純利益低下により前期比減の9.3%で株主資本コストを上回る水準を維持、ROEは、3期減少傾向
2026年6月期のPBRは1.35倍（前期は1.65倍）、PER14.6倍（前期は14.3倍）

収益性と成長性の2軸で評価が得られるよう中期経営計画の戦略を展開し、ROEの減少傾向からの転換を目指す

株主資本コストとROEの推移（%）



時価総額（自己株を除く）（百万円）



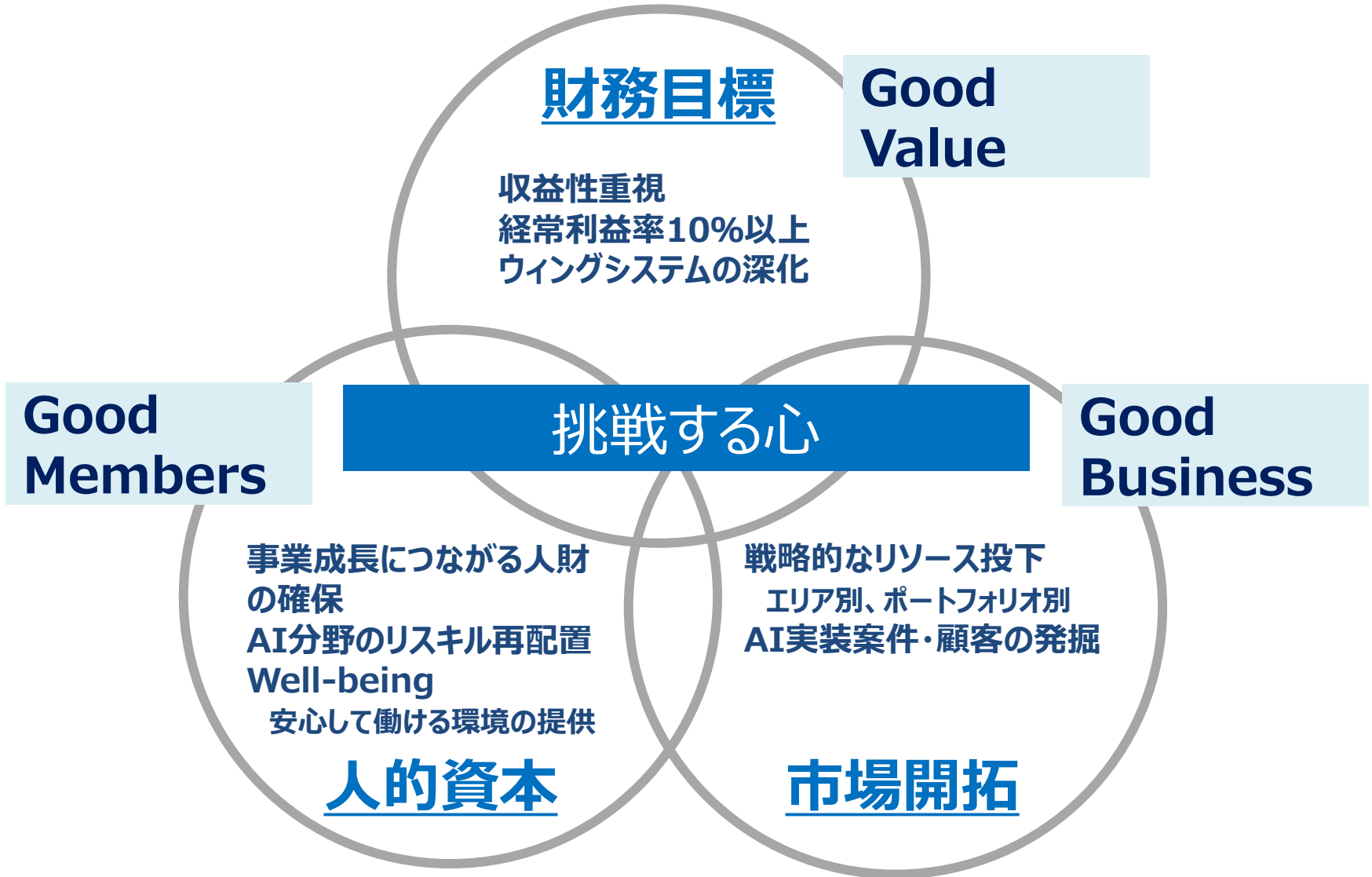
$$\begin{array}{lcl}
 \text{株主資本コスト} & = & \text{リスクフリーレート} + \text{ベータ} (\beta) \times \text{マーケットリスクプレミアム} \\
 5.9\% & = & \begin{array}{l} \text{安全資産利子率} \\ \text{10年国債利回り} \\ 2.69\% \end{array} + 0.48 \times \begin{array}{l} \text{TOPIXと10年国債} \\ \text{利回りの差から算定} \\ 6.9\% \end{array}
 \end{array}$$

※中長期の株主資本コストを採用（CAPMベース）

$$\begin{array}{lcl}
 \text{ROE} & = & \text{当期純利益率} \times \text{総資産回転率} \times \text{財務レバレッジ} \\
 9.3\% & = & 4.22\% \times 1.34\text{回転} \times 1.65\text{倍}
 \end{array}$$

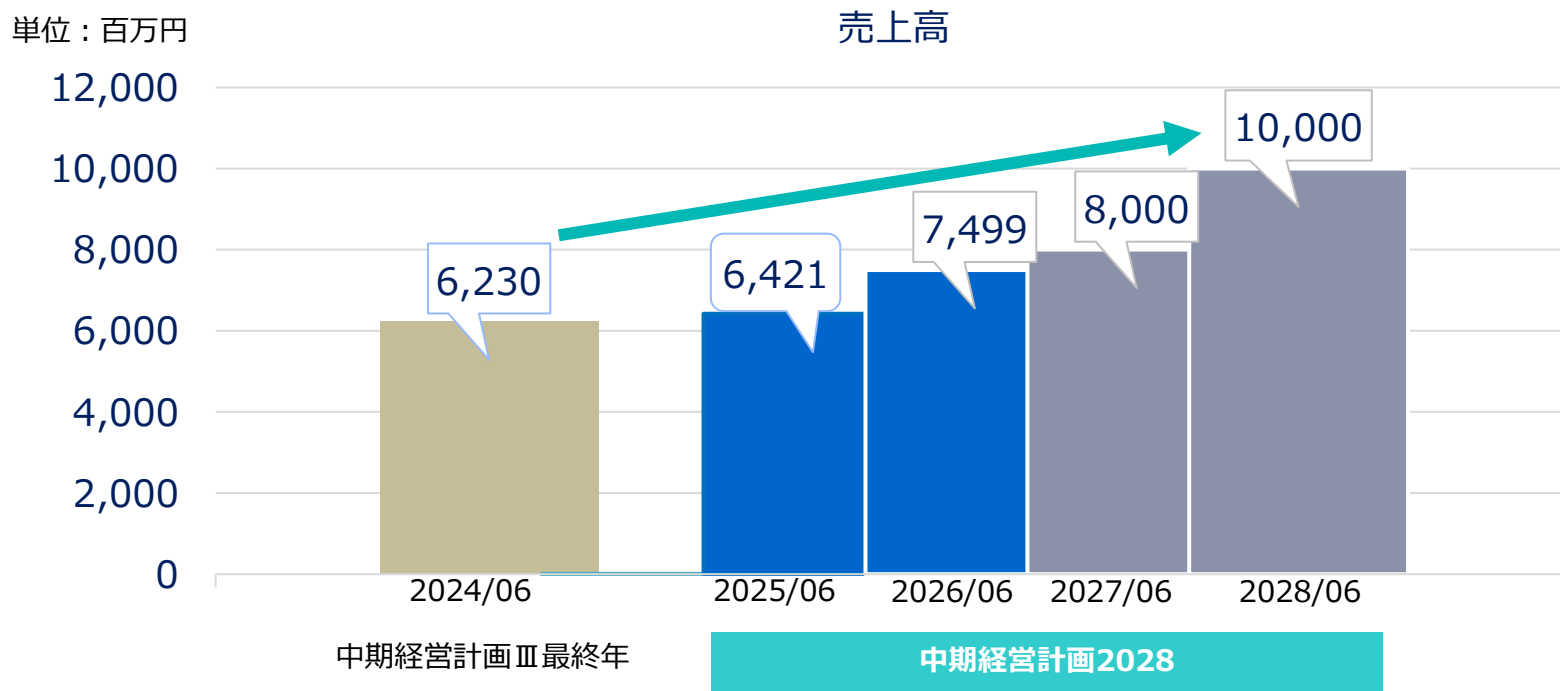
中期経営計画2028 後半2年間の方向性

3つのGoodのイメージ図



中期経営計画2028 売上高目標到達に向けて

後半2年間の主な戦略展開 到達に必要な増収 25億円 ※2026年6月期実績比



収益性、成長性の高い事業へのシフト、受注拡大

ITソリューション事業の増収率 15%以上、ITインフラ事業の増収率を20%以上、ITサービス事業の増収率を5%以上を目標に、増収を目指す

首都圏でのM & A 推進、新規子会社の獲得

AI活用を推進し、AI×ITにより未来価値を創造できるIT企業の獲得

2027年6月期（第36期） 経営計画

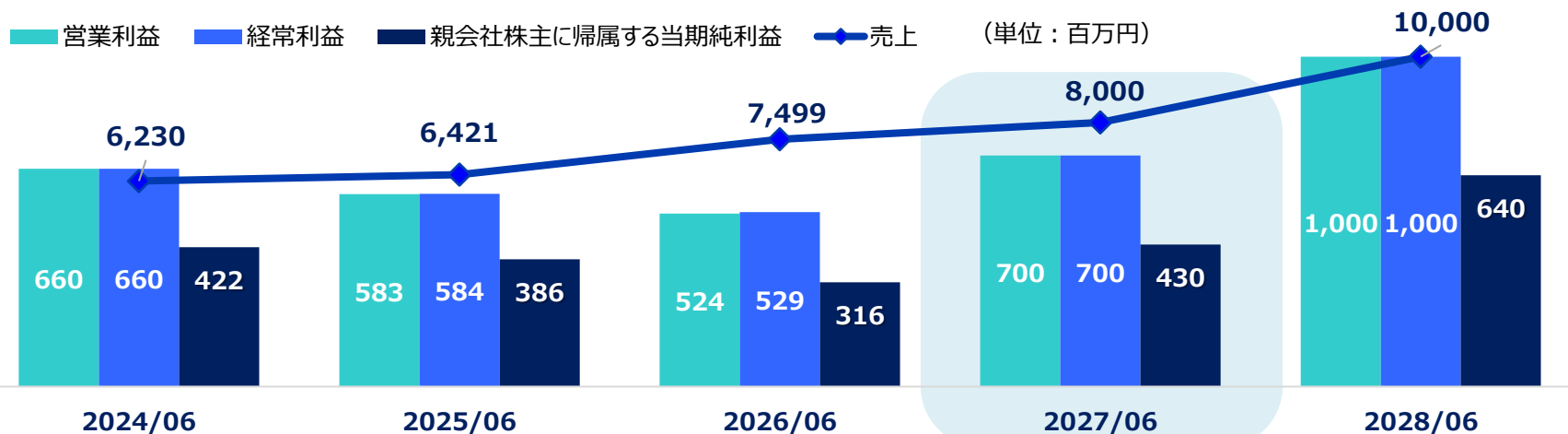
2027年6月期 経営計画ハイライト

売上高80億円、経常利益7億円の計画

前期課題の解決を図り、事業の拡大と高付加価値化に向けた施策に取り組む

当初の中期経営計画期間

1年間延長



ITソリューション

- ・消防防災事業の収益性向上。付加価値upに向けた機能開発の検討
- ・SI・ソフトウェア開発は、高付加価値分野への人財シフト継続

ITインフラ

- ・開発＋構築のトータルソリューション提案強化
- ・首都圏域でのインフラ案件の受注活動の推進

ITサービス

- ・第三者保守サービスの収益性回復、赤字解消

2027年6月期 基本方針

■ 中期経営計画2028 基本方針

Challenging Mind

社は「挑戦する心」をもって、事業の拡大と高付加価値化を実現し、新たな顧客を創造する

売上高 **100億円**

経常利益率 **10%以上**

ROE **15%以上**

持続可能な社会の進歩・発展に貢献

社会的な価値

私たちは、輝くICTサービスで社会の向上に貢献します

経済的な価値

高収益はすべてのステークホルダーに満足してもらえる源

アクモスグループ理念

社是(信条)、企業理念(存在意義)
アクモスフィロソフィー
(考え方、価値観、行動規範)

ウィングシステム

少人数の採算管理制度により、
KPI最大化とリーダー人財育成を図る

■ 2027年6月期 基本方針

Good Business

事業領域の拡大と高付加価値モデルの実現

- ・事業エリア、顧客業種ごとの収益性、成長性に応じ、高付加価値モデルの実現に取り組む
- ・AI実装、AI活用案件の獲得を推進

Good Members

挑戦する心を育む

- ・AIエンジニアの育成、AI活用の促進のため、AIリーダー、グループ内AIエバンジェリストの育成に取り組む
- ・高付加価値モデルの実現のため、社員の自律的な成長と挑戦を推進

Good Value

付加価値向上の基盤強化

- ・プロジェクト収益の適正化、時間当たり付加価値を指標としたウィングシステムの深化
- ・業務プロセス変革、効率化にAI活用を推進

2027年6月期 業績予想

連結	2026年6月期 通期実績	2027年6月期 通期予想	対前期 増減率
売上高	7,499百万円	8,000百万円	6.7%
営業利益	524百万円	700百万円	33.5%
経常利益	529百万円	700百万円	32.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	316百万円	430百万円	35.9%
1株当たり当期純利益	31.81円	43.22円	—
株主資本利益率（ROE）	9.3%	12.2%	—
経常利益率	7.1%	8.8%	—
時間当たり付加価値	3,895円	4,100円	—

※ 当社の時間当たり付加価値の計算式（収入 - 労務費以外の経費）÷ 総稼働時間 = 時間当たり付加価値

※ 2027年6月期の予想数値は、発表日時時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる場合がございます。

2027年6月期計画のポイント

営業利益、経常利益は2026年6月期比で30%以上の増加を見込み、収益性の向上を目指す



- ・ITソリューション事業、ITサービス事業は、2026年6月期比で伸長の見込み。大型案件が減る見込みのITインフラ事業は、新規提案、エリアの拡大に注力
- ・新規開拓（案件×エリア×顧客）を継続

2026年10月に子会社の株式会社システムズサービスを吸収合併

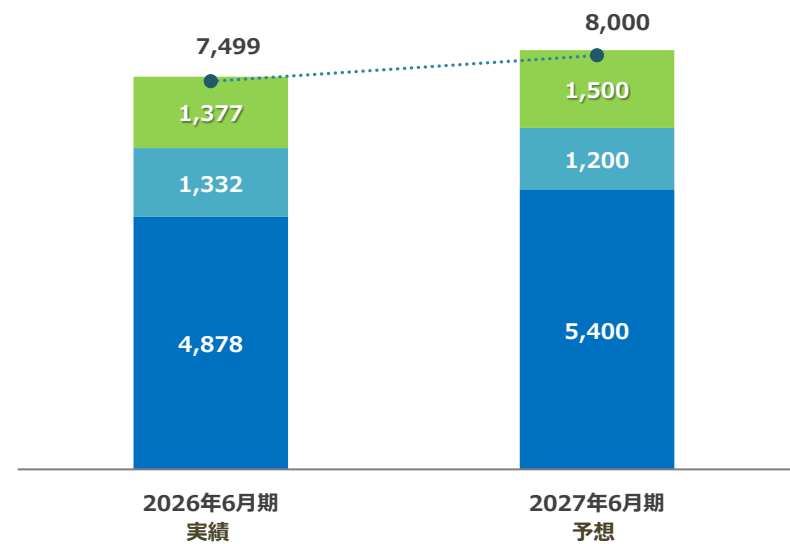


- ・業務、制度、システムの統合を優先度に応じて計画的に行い、業務の効率化を図る

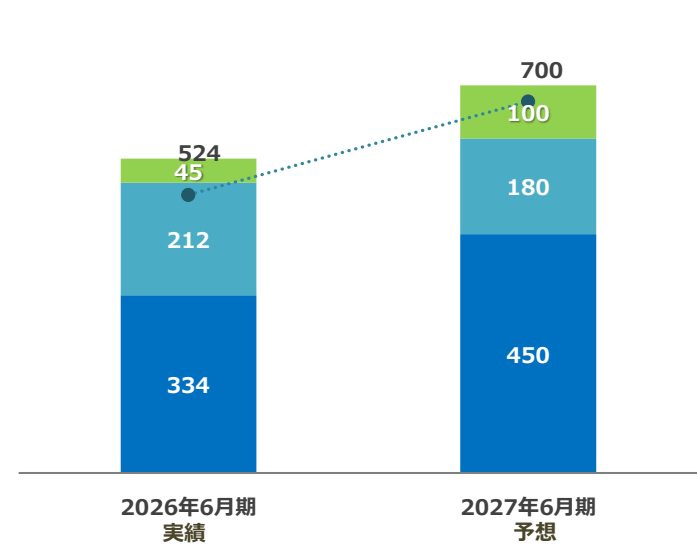
2027年6月期 セグメント別予想

(単位：百万円)

売上高



営業利益



		2026年6月期	2027年6月期		
		実績	予想	増減額	増減率
売上高		7,499	8,000	500	6.7%
	ITソリューション事業	4,878	5,400	521	10.7%
	ITインフラ事業	1,332	1,200	▲132	▲10.0%
	ITサービス事業	1,377	1,500	122	8.9%
営業利益		524	700	175	33.5%
	ITソリューション事業	334	450	115	34.5%
	ITインフラ事業	212	180	▲32	▲15.3%
	ITサービス事業	45	100	54	120.6%

※各セグメントの売上高・営業利益には内部取引分を含み、連結の数値は内部取引相殺後となっております。

2027年6月期 主な戦略 1

事業戦略

Growth成長投資領域

- ・ 消防防災事業：プロジェクト管理の改善により収益性の向上を図る
付加価値upに繋がる機能開発の検討（AI活用等）
- ・ ネットワーク事業：システム開発＋インフラ構築のトータルソリューション提案強化
首都圏域でのインフラ案件の受注活動の推進

Core維持伸長領域

- ・ SES事業を中心にITソリューション事業のお客様業種の多様化に向けて営業活動を強化
- ・ 高付加価値分野への人財シフトを継続、全事業分野で新規受注を強化
- ・ AI実装、AI活用等AI案件の需要に対応する体制の整備と受注活動の推進

Rebuild改善領域

- ・ 第三者保守サービスの収益性の回復、赤字の解消

Challenge研究開発領域

- ・ AI駆動開発、検証プロセスでのAI活用を推進
- ・ 行政DXに貢献する行政向けクラウドソリューション新規立ち上げ

2027年6月期 主な戦略 2

人財戦略

事業戦略と人財戦略を融合し、戦略の確実な遂行と持続的な成長を実現する

目指す姿

会社が社員一人ひとりの自律的な成長と挑戦を支援し、成長した社員が事業戦略の推進者として活躍し、付加価値向上をけん引する

人財の確保

- ・リーダー人財の確保
- ・将来事業を担う人財採用強化及び女性採用比率の向上

人財育成、再配置

- ・AI等先端技術対応強化
- ・社員の学び成長を支援
- ・人財の再配置、成長事業への人財シフト

Well-being

- ・オフィス環境の改善
- ・人事評価制度等各種制度の改善、充実

給与その他給付額、内容の決定に関する基本方針

- ・持続的な事業成長の達成上、最も重要な経営資源である人財の一人ひとりの成長を念頭に、職種及び職務における役割や責任の大きさに応じた処遇を行う
- ・グループ各社は、それぞれの会社ごとに定めた給与制度、評価方針に基づく人事評価制度を運用

アクモスグループAI利活用基本ビジョン

AIT & ∞ エイアイティ アンド インフィニティ

私たちは、未来価値を創造する

私たちが目指すのは、一人ひとりが、AI×IT人財として輝く未来です

AI-driven: AIを道具として使いこなし、新たな価値を生む

Industry-focused: 官公庁・製造・金融などの業種・業務知識を持つ

Technology: 私たちの確かなIT技術を最大限活用する

AI

判断・予測・効率化

×

ITスキル

開発力、構築力

×

**業種・業務
知識**

潜在力、将来性が広がる

潜在力∞

未来に限界を設けない

可能性∞

事業環境・テクノロジーとともに進化

進化∞

AI活用推進 アクモスの取り組み

グループの中核会社であるアクモスの取組み

環境、人財の両面で、A I 活用を促進

- ・AIの利活用モデル構築を環境、人財の両面で推進
- ・AI推進プロジェクトは、代表取締役会長兼CEOの直轄プロジェクトとして発足

安心して使える環境



AI活用の社内ルール

基本ルールの整備、活用を想定した判断用マスターの整備運用

ACMOS AI環境整備

ローカルLLMの構築等より安全にAIを使用できる環境

AIエバンジェリストの育成



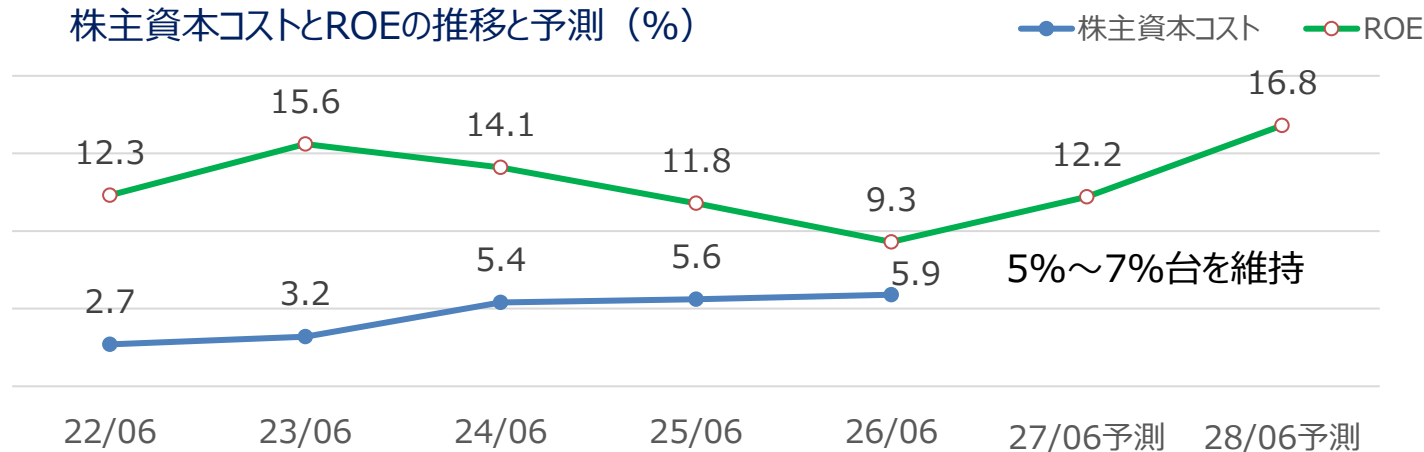
AIリーダー育成プログラム

プログラム終了後、
当社内のエバンジェリストとして、
AI利活用普及の役割を担う

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

収益性向上を図り、成長に向けた事業投資を促進して中期経営計画の戦略を展開し、ROEの上昇基調の回復と2028年6月期のROE15%以上を目指す

株主資本コストとROEの推移と予測（％）



ROE予測

27年6月期ROE
12.2%

=

当期純利益率
5.38%

×

総資産回転率
1.35回転

×

財務レバレッジ
1.68倍

当期純利益率	人財投資により獲得した人員の収益貢献とGrowth領域の事業成長を推進
総資産回転率	在庫水準の適正化を継続、グループ内資金融通制度の運用を開始
財務レバレッジ	財務健全性を維持し成長分野への選択的投資、2028年6月期迄累進配当実施

コーポレート・ガバナンス

アクモスグループ理念の浸透およびコーポレートガバナンス・コードに基づき、取締役会、指名報酬委員会、監査等委員会において、ガバナンス強化にむけた取り組みを進めております。

- 1.ステークホルダーや事業活動倫理を尊重する企業文化・風土の形成
アクモスグループの社是、企業理念、アクモスフィロソフィーを尊重する企業文化を組織に根付かせ、持続的な成長と企業価値の向上に努める
- 2.適切な情報開示と透明性の確保
情報開示の透明性・公正性を確保し、投資家や資本市場からの信頼の維持に努める
- 3.取締役会等の機能充実
取締役会は、多様なスキルやバックグラウンドを有する取締役で構成し、その機能を果たせるよう維持する
- 4.資本コストや株価を意識した経営
年1回、進捗に関する分析、情報開示の更新を行い、ステークホルダーとの対話に向けた基盤を整備する

なお、2027年6月期中に、2026年7月改訂のコーポレートガバナンス・コードに対応したコーポレート・ガバナンス報告書の更新を予定しております。

■業績連動型譲渡制限付株式報酬制度

- ・業務執行取締役のインセンティブとして、各事業年度ごとの業績条件を達成した場合に交付し、交付後5年間は譲渡を制限することにより、取締役と株主の皆様との一層の価値共有を促進
 - ・株式報酬支給の業績条件は、連結および単体における売上高、経常利益目標の達成
- ※中期経営計画を1年延長しておりますが、2024年9月の第33回株主総会でご承認いただいた業績条件を適用

株主還元

株主への利益還元方針

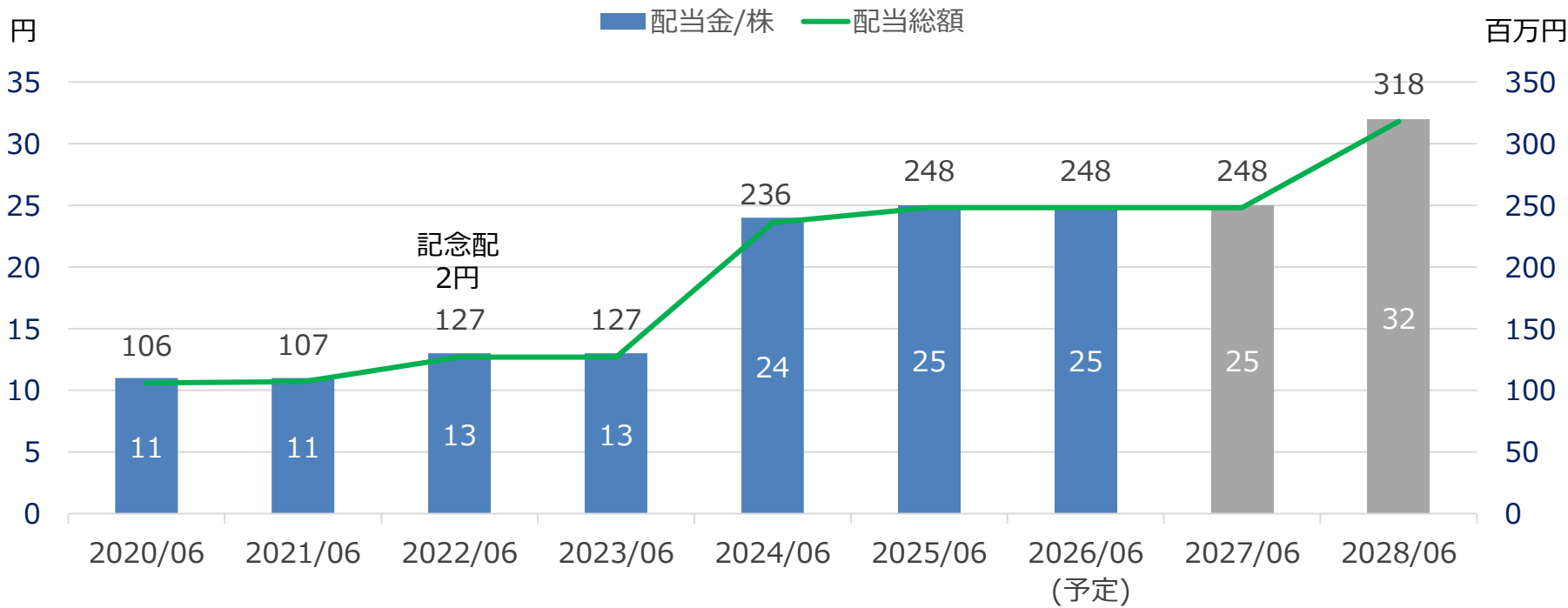
配当方針

親会社株主に帰属する当期純利益に対する
配当性向50%以上

2025年6月期からの4年間 累進配当を適用

原則として減配せず、
配当の維持もしくは増配を行う

1株当たり配当金 & 配当総額の推移



参考資料

中期経営計画及び累進配当期間を2028年6月期まで延長

2025年8月5日、『中期経営計画2027(2024/07-2027/06)』の最終年度1年延長を発表し、名称を『中期経営計画2028』に変更。当初計画で示した各年度の計画数値を1年ずつ繰り延べ、ROE目標は2028年6月期15%以上に修正しました。基本方針・事業戦略・人財戦略に変更はありません。課題である人財投資の収益貢献時期の適正化とトップライン伸長への対策を進めるとともに、成長投資領域を中心に受注の強化に努めてまいります。

また、中期経営計画の延長に伴い、配当方針に定める累進配当の実施期間を1年延長し、2028年6月期までとすることを発表しました。

株式会社プライムシステムデザインの決算期を変更

2026年1月15日、業績等の経営情報をより適時に開示し経営の透明性の更なる向上を図るため、株式会社プライムシステムデザインの決算期を3月から当社と同じ6月に変更することを発表しました。

2026年6月期連結決算は、株式会社プライムシステムデザインの15カ月間（2025/04-2026/06）の決算を取り込んだものとなります。

株式会社システムズサービスを子会社化。10月1日付での合併を発表

2026年1月15日、首都圏地区のSI・ソフトウェア開発事業分野における事業拡大を目的に、システム開発を中心としたシステムエンジニアリングサービス(SES)を提供する株式会社システムズサービスの株式取得にかかる株式譲渡契約を締結。2026年1月29日付で同社の全株式を取得し子会社化しました。

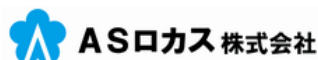
また、2026年4月21日、10月1日付でアクモス株式会社を存続会社、株式会社システムズサービスを消滅会社とする吸収合併を実施することを決定しました。

アクモスグループ一覽



アクモス株式会社 設立：1991年8月 資本金：6億9,325万円 URL：https://www.acmos.co.jp/
所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目21番19号 東急虎ノ門ビル8階 TEL：03-5539-8800

主要取引先：株式会社日立製作所、富士通株式会社、茨城県、茨城県警察本部、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、JAXA 宇宙航空研究開発機構、NTT東日本株式会社、KDDI株式会社 他



ASロカス株式会社 設立：1980年1月 資本金：1億円 URL：https://www.as-locus.jp/
所在地：〒260-0024 千葉県千葉市中央区中央港1丁目22番7号 TEL：043-203-5301

主要取引先：株式会社マッフル、総務省、経済産業省、農林水産省、林野庁、国税庁、千葉県、埼玉県、宮城県、八王子市他官公庁、住友林業株式会社、一般財団法人消防防災科学センター 他



アクモスメディカルズ株式会社 設立：1981年3月 資本金：1億円 URL：https://www.acmos-ms.jp/
所在地：〒104-6109 東京都中央区晴海一丁目8番11号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーY9階
TEL：03-6206-7495 主要取引先：東京医科大学病院、東京臨海病院、株式会社ソフトウェア・サービス 他



株式会社フィールドワン 設立：1982年7月 資本金：8,000万円 URL：https://field-one.com/
所在地：〒162-0053 東京都新宿区原町3-87-4 NTビル1階 TEL：03-5368-2111

主要取引先：日本電子株式会社、TOPPAN株式会社、ユニアデックス株式会社、シャープ株式会社、クオリカ株式会社 他



株式会社ジイズスタッフ 設立：1997年3月 資本金：5,000万円 URL：https://www.gstf.jp/
所在地：〒101-0032 東京都千代田区岩本町一丁目10番3号 紀繁ビル4階 TEL：03-5829-6428

主要取引先：株式会社高等教育総合研究所、官公庁、大学、民間企業、労働組合 他



株式会社プライムシステムデザイン 設立：1998年9月 資本金：3,000万円 URL：https://prime-sd.co.jp/
所在地：〒164-0011 東京都中野区中央2丁目22番地13号 フジビル1 4階 TEL：03-5338-0127

主要取引先：株式会社FRONTEO、株式会社コーエイシステム、京セラコミュニケーションシステム株式会社 他



株式会社システムズサービス 設立：1999年2月 資本金：2,000万円 URL：https://www.syssrv.co.jp/
所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目21番19号 東急虎ノ門ビル8階 TEL：03-5539-5332

主要取引先：SCSK株式会社、株式会社ジャステック、株式会社アドヴァンスト・インフォメーション・デザイン 他

※株式会社システムズサービスは、2026年7月13日付での本社移転後の所在地、電話番号を記載しております。

2026年6月30日現在

アクモスグループ事業

社是

挑戦する心

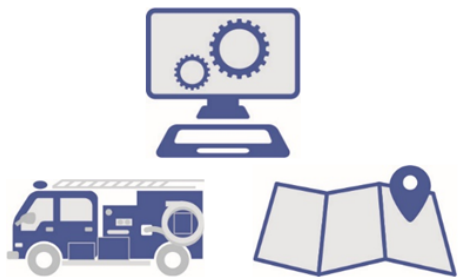
挑戦を心の糧に、失敗を技術の種に

企業理念

アクモスグループは、社会の進歩・発展に貢献するため、仕事を通して心の豊かさと技術の向上を追求し、お客さまに感動していただけるプロフェッショナルなサービスを提供して、持続的な成長を実現します。

当社グループは、事業持株会社の当社及び連結対象の子会社6社で構成されており、事業セグメントの区分をITソリューション事業、ITインフラ事業、ITサービス事業の3つに分類しております。

ITソリューション



SI・ソフトウェア開発
消防防災ソリューション
GISソリューション

ITインフラ



IT基盤・ネットワーク構築
クラウド関連サービス

ITサービス



第三者保守サービス
病院情報システム維持管理
サーベイ・アンケート
ビジネスプロセス アウトソーシング

連結貸借対照表(要約)

(単位：千円)

資産の部			負債の部		
科目	前期末	当期末	科目	前期末	当期末
現金及び預金	2,903,929	3,059,644	買掛金	313,374	353,939
受取手形及び売掛金	1,018,300	1,004,895	短期借入金 ※1	148,994	627,440
棚卸資産	545,625	615,892	未払金	239,374	331,589
その他	119,419	134,051	未払費用	410,576	430,835
流動資産合計	4,587,275	4,814,483	その他	308,749	308,803
有形固定資産	280,969	287,870	流動負債合計	1,421,068	2,052,608
無形固定資産	221,732	405,106	長期借入金	251,700	15,810
投資その他の資産	288,647	317,246	その他	38,883	49,460
固定資産合計	791,348	1,010,223	固定負債合計	290,583	65,270
			負債合計	1,711,652	2,117,879
			純資産の部		
			株主資本合計	3,360,655	3,429,269
			その他の包括利益		
			累計額合計	2,583	8,810
			非支配株主持分 ※2	303,732	268,746
			純資産合計	3,666,971	3,706,827
資産合計	5,378,624	5,824,706	負債純資産合計	5,378,624	5,824,706

※1長期借入金（1年以内）を前期末73,994千円・当期末252,440千円含んでおります。
※2 連結子会社のうち、ASロカス株式会社は株式会社昭文社ホールディングスが株式の19%を、
株式会社フィールドワンは同社関係者が株式の15.2%を、株式会社プライムシステムデザインは同社役員が株式の20%を所有しております。

連結損益計算書(要約)

(単位：千円)

	2025年6月期 通期	2026年6月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	6,421,748	7,499,453	1,077,705	16.8%
売上原価	4,113,341	5,093,701	980,359	23.8%
売上総利益	2,308,406	2,405,752	97,345	4.2%
販売費及び一般管理費	1,724,421	1,881,424	157,003	9.1%
営業利益	583,984	524,327	▲59,657	▲10.2%
営業外損益	1,011	4,954	3,943	389.9%
経常利益	584,996	529,282	▲55,713	▲9.5%
特別損益	▲1,334	▲4,515	▲3,180	—
税金等調整前 当期純利益	583,661	524,767	▲58,894	▲10.1%
法人税等	178,232	194,951	16,718	9.4%
非支配株主に帰属する 当期純利益	19,400	13,355	▲6,044	▲31.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	386,028	316,460	▲69,568	▲18.0%

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：千円)

	2025年6月期 通期	2026年6月期		
		通期	増減額	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	256,609	406,299	149,689	58.3%
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲13,224	▲199,529	▲186,305	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲382,398	▲72,515	309,883	—
現金及び現金同等物の増減額	▲139,012	134,254	273,267	—
現金及び現金同等物の期首残高	2,934,516	2,795,504	▲139,012	▲4.7%
現金及び現金同等物の期末残高	2,795,504	2,929,759	134,254	4.8%

単体貸借対照表(要約)

(単位：千円)

資産の部			負債の部		
科目	前期末	当期末	科目	前期末	当期末
現金及び預金	1,307,495	1,197,976	買掛金	193,265	182,833
受取手形及び売掛金	712,339	681,902	短期借入金 ※1	132,400	620,400
棚卸資産	153,219	192,015	未払金	113,483	114,793
その他	43,647	45,825	未払費用	297,308	286,512
流動資産合計	2,216,702	2,117,720	賞与引当金	21,131	22,185
有形固定資産	239,101	239,816	その他	168,822	142,369
無形固定資産	19,850	24,016	流動負債合計	926,410	1,369,094
投資その他の資産	1,636,450	1,964,376	長期借入金	250,400	—
固定資産合計	1,895,402	2,228,209	その他	6,239	7,257
			固定負債合計	256,639	7,257
			負債合計	1,183,050	1,376,352
			純資産の部		
			株主資本合計 ※2	2,928,079	2,966,501
			評価・換算差額等合計	975	3,075
			純資産合計	2,929,054	2,969,577
資産合計	4,112,104	4,345,929	負債純資産合計	4,112,104	4,345,929

※1 長期借入金（１年以内）を前期末62,400千円・当期末250,400千円含んでおります。
※2 自己株式を前期末は▲27,668千円、当期末は▲27,668千円含んでおります。

単体損益計算書(要約)

(単位：千円)

	2025年6月期 通期	2026年6月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	3,870,843	4,449,071	578,228	14.9%
営業利益	404,735	375,658	▲29,076	▲7.2%
経常利益	464,946	410,271	▲54,675	▲11.8%
当期純利益	351,168	287,123	▲64,044	▲18.2%

単体業績予想

単体	2026年6月期 通期実績	2027年6月期 通期予想	対前期 増減率
売上高	4,449百万円	5,000百万円	12.4%
経常利益	410百万円	540百万円	31.6%
当期純利益	287百万円	370百万円	28.9%
1株当たり当期純利益	28.86円	37.19円	—

※ 2027年6月期の予想数値は、発表日時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる場合がございます。

■ 本資料について

本資料に記載されている将来の見通しなどについては、本資料の発表日時時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。今後、当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、需給関係等の変化にともない、業績見通しが変更される可能性があります。

また、本資料は、当社の株式購入など投資を勧誘する目的で作成されたものではありません。

なお、本資料の将来の見通しについての記述に関しましては、法令上その手続きが必要となる場合を除き、事前の予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。

アクモス株式会社 コーポレートマネジメント室

TEL : 03-5539-1572

HP : <https://www.acmos.co.jp/>